

CSRLレポート 2015

Corporate
Social
Responsibility
REPORT



Contents

■ 会社概要	02
■ トップメッセージ	03
■ 社会の中のニチアスグループ	05
特集 モータリゼーションの環境負荷低減に 貢献するニチアスの自動車部品	07
■ CSR活動への取り組み	12
■ コーポレートガバナンス	13
■ お客さまとのつながり	15
■ 株主・お取引先とのつながり	16
■ 社会とのつながり	17
■ 従業員とのつながり	19
■ 環境への取り組み	20
■ 環境マネジメント	21
■ 環境パフォーマンス	23
■ 環境TOPICS	25

編集方針

ニチアスグループは、持続可能な社会の実現に向けた取り組みと社会的責任に関する情報をわかりやすく開示し、ステークホルダーの皆さまのご理解を深めることを目的に、CSR (Corporate Social Responsibility) レポートを発行しています。

本レポートでは特集として、モータリゼーションの環境負荷低減に貢献する当社グループの自動車部品について紹介しています。

なお、本レポートの作成にあたり、「GRIサステナビリティ・レポート・ガイドライン第3.1版」および「環境報告書ガイドライン(2012年度版)」(環境省)を参考にしています。

報告範囲

ニチアス株式会社を中心に、下記項目を除きニチアスグループ全体について報告しています。

- ・「従業員とのつながり」(P19)はニチアス株式会社単体を対象としています。
- ・「環境への取り組み」(P20~26)は、プラント向け販売・工事事業および建材事業の工事部門に関するデータを除いております。
- ・「環境パフォーマンス」(P23、24)は当社製造工場^{注1}、国内連結製造子会社^{注2}を対象としています。

注1: 鶴見工場、王寺工場、郡山分工場、羽島工場、袋井工場、結城工場
注2: ニチアスセラテック株式会社、株式会社堺ニチアス、国分工業株式会社、竜田工業株式会社、大田化成株式会社、株式会社福島ニチアス、メタコート工業株式会社

報告期間

2014年4月1日~2015年3月31日

次回発行予定

2016年7月

将来の見通しに関する注意事項

本レポートには、ニチアスグループの実績および将来に関する予測・計画などが記載されています。これらは現段階で入手可能な情報に基づいた仮定ないし判断であり、実際の業績や活動結果などについては異なったものとなる可能性があります。読者の皆さまにはあらかじめご了承くださいようお願い申し上げます。

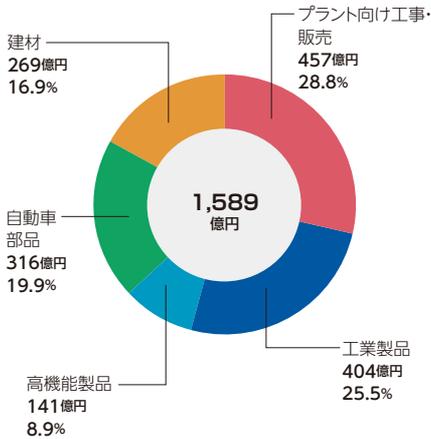
※本冊子中の製品名・サービス名はニチアス(株)の登録商標または商標です。

会社概要

「断つ・保つ」の技術で地球の明るい未来に貢献します。

事業分野

事業分野別売上高比率(2015年3月期)



建材事業

不燃・断熱・耐火などの性能を備えた建材を提供するとともに、その建材を活用した施工事業も展開。オフィスビル、住宅、工場、研究施設などの、より安全で快適な空間づくりに貢献しています。



不燃内装材

住宅用断熱材

自動車部品事業

シリンダーヘッドガスケットなどの流体の漏れを「断つ」機能部品であるシール材をはじめ、自動車の進化に対応する防熱、防音、制振関連の製品や技術を提供しています。



シリンダーヘッドガスケット

防音カバー

プラント向け工事・販売事業

極低温から超高温にいたる領域で、独自技術を駆使したエンジニアリングサービスやシール材などをはじめとする製品を提供。電力、LNG、石油精製・石油化学などのプラント施設に常駐体制を構築することで、各種工事やメンテナンス工事におけるお客さまのニーズにお応えしています。



シール材

保冷工事

工業製品事業

装置機器、環境、食品、医療、鉄鋼などの主要産業分野を中心に、ガスケット・パッキン、ふっ素樹脂製品、各種断熱材、フィルター製品などの幅広い製品を提供しています。また、全社のマザー事業本部として、新規事業創出の役割も担っています。



ロックウール断熱材

うず巻形ガスケット

高機能製品事業

技術革新の早いエレクトロニクス関連産業分野のなかで、半導体・FPD製造装置における、熱・薬液・ガスなどプロセスに関わる先進の部品や部材を提供しています。



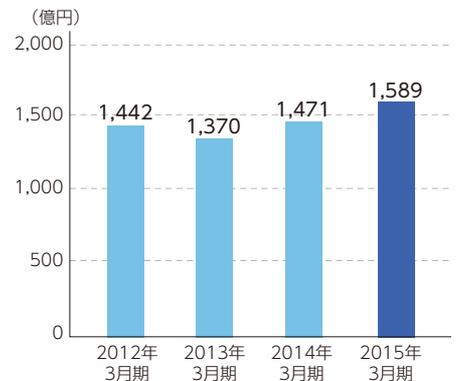
ふっ素樹脂製チューブ

配管加熱・保温ヒーター

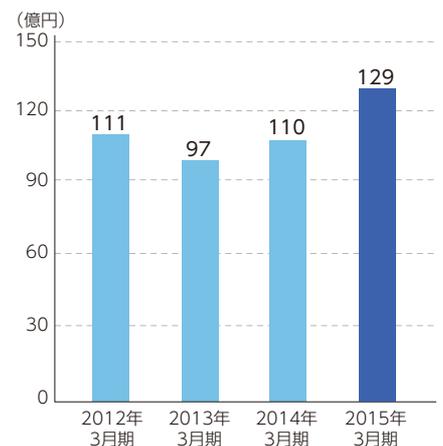
会社概要

商号 ニチアス株式会社
 NICHIAS Corporation
設立 1896年(明治29年)4月9日
資本金 92億8,357万202円
 (2015年3月31日現在)
代表者 代表取締役社長 武井 俊之
従業員 連結:5,062人/単独:1,550人
 (2015年3月31日現在)
本社 東京都中央区八丁堀一丁目6番1号

売上高推移(連結)



経常利益推移(連結)





代表取締役社長

武井俊之

ニチアスグループは企業の社会的責任を果たし、
ステークホルダーのみなさまのご期待にお応えすることで
持続可能な社会の実現を目指します。

ニチアスは1896年(明治29年)、我が国における保温・断熱分野のパイオニアとしてスタートしました。以来119年間、我が国の産業の発展とあゆみをともしながら、さまざまな産業分野へ、当社グループの基盤技術である「断つ・保つ」の技術を軸とした製品とサービスを提供し続けて今日にいたっております。

当社グループの企業理念である「ニチアス理念」では、「『断つ・保つ』の技術で地球の明るい未来に貢献する」ことを謳っています。これは、当社グループが極低温から超高温という広い温度領域に対して、また液体・気体をはじめとするさまざまな対象物に対して、漏れ・熱・音・腐食などを「断つ」機能や、熱・クリーンを「保つ」機能をもった製品・サービスを幅広く提供することで、継続的に社会へ貢献することを表明したものです。

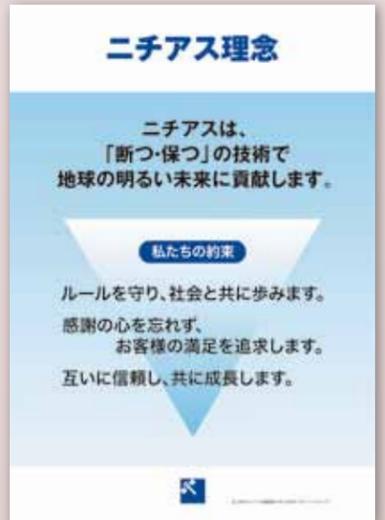
この企業理念のもと当社グループは企業の社会的責任を果たすべく「お客様から信頼され、誇りを持って働ける会社」という経営ビジョンを掲げ、以下の重要課題に取り組んでおります。

- ・コンプライアンスの厳守
- ・企業価値の向上とステークホルダーのみなさまとの価値の共有
- ・グローバルな事業運営の推進
- ・明日を担う人材の育成と登用
- ・リスクマネジメントの強化

これからも当社グループはCSR活動の推進に努め、当社の製品や事業活動を通して環境問題をはじめとする地球規模の社会的課題解決に参画することで持続可能な社会の実現に貢献してまいります。加えてお客さま、株主・投資家のみなさま、社会のみなさまをはじめとするステークホルダーのみなさまからの信頼と期待にお応えすることで、持続的成長を目指してまいります。

当社グループがこれらの重要課題への取り組みを通じて社会的課題の解決にどのように取り組んできたかを、当「CSRレポート」によって、ステークホルダーのみなさまに広くご報告することで、みなさまとのコミュニケーションの一助になればと考えております。

今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げます。



ニチアスグループは「断つ・保つ」の技術でさまざまな産業の発展に貢献しています。

半導体製造工場



薬液移送用チューブ
ナフロン®PFA-HGチューブ
 高純度の薬液・ガスの移送に使用されるチューブです。

住宅



住宅用断熱材
ホームマットNEO®
 住宅の天井・壁・屋根に使用される断熱材です。

ビル

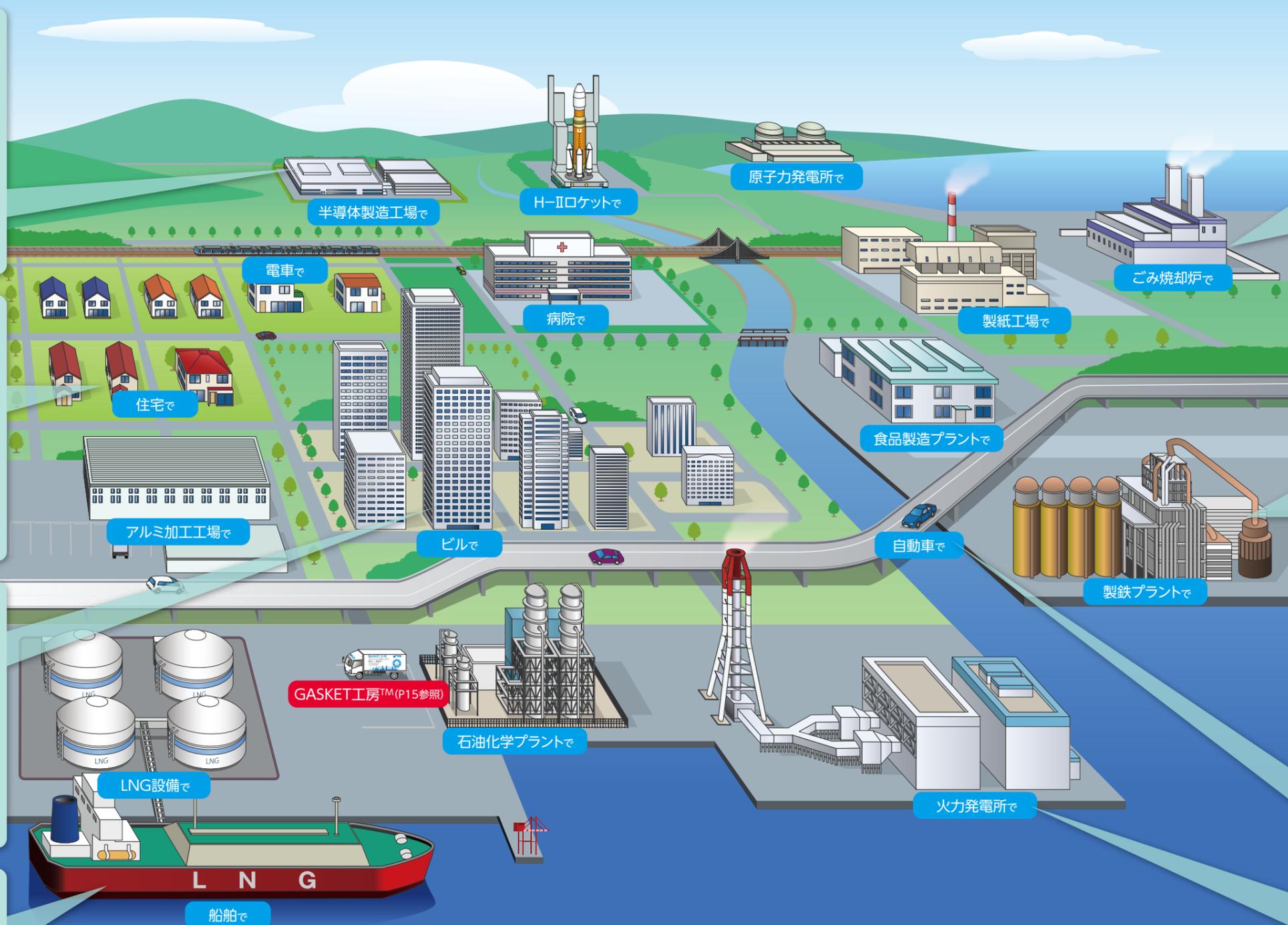


巻き付け耐火被覆材
マキベエ®
 鉄骨構造ビルの梁や柱に使用される耐火被覆材です。

船舶



汎用ジョイントシート
クリンシル®ブラウン
 配管のフランジ・バルブなどに使用されるシール材です。

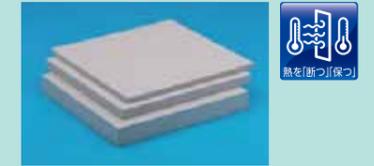


ごみ焼却炉



非金属製伸縮継手
NAペロー-Q®
 各種配管やダクトなどの煙風道に使用される非金属製伸縮継手です。

製鉄プラント



高耐熱断熱材
ロスリム®ボード
 高温の工業炉などで使用される断熱材です。

自動車



超軽量防音カバー
エアトーン®
 エンジンカバーなどに使用される防音カバーです。

火力発電所



うず巻形ガスケット
グラシル®ボルテックス®ガスケット
 エンジンやボイラーなどの機器や配管で使用されるシール材です。

「断つ・保つ」の6つの技術



シール技術



断熱技術



防音技術



耐火技術



耐食技術



クリーン技術

モータリゼーションの環境負荷低減に貢献する ニチアスの自動車部品

現在、自動車の燃費規制、排ガス規制、車外騒音規制など環境規制が世界各国で強化されています。当社は、こうした動向を先取りし、お客さまである自動車メーカー各社の環境規制対応に関するご要望にお応えする製品をご提案しています。

とくに燃費規制に関しては、中国、インドも日欧米と同様のペースで規制強化しているのはじめ燃費規制国が急速に増加し、当社はこうした要求に対し「インサルカバー™」「ウォータージャケットスペーサー」などの製品、また排ガス規制への対応として触媒担体保持材「エコフレックス™」をご提案しています。さらに車外への騒音規制の強化に対しては、超軽量防音カバー「エアトーン®」をご提案し、今後の市場での拡大を見込んでいます。

このように当社は、お客さまとの信頼関係を築き、お客さまと当社が一体となった開発生産体制を構築し、モータリゼーションの環境負荷低減に貢献する独自の自動車部品を世界の自動車メーカーにご提供しています。

燃費の改善

騒音の抑制

大気汚染軽減

環境負荷低減への各種課題に対するニチアスの取り組み



ウォータージャケットスペーサー

エンジンのウォータージャケット部に挿入することで、冷却水の流れをコントロールする製品です。その結果、シリンダ壁温を均一化させてピストンのフリクションを低減し、燃費を向上させます。冷却水の流れをシミュレーションすることで最適な設計をおこなっています。



エアトーン®

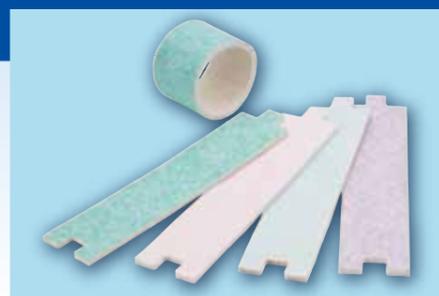
吸音するPETフェルト層と遮音性を持つ特殊処理不織布を重ね合わせた、軽量かつ防音性に優れた新発想の不織布被覆防音カバーです。従来の樹脂カバーに比べ、約1/3の超軽量を実現しました。(1/3の質量で従来と同等以上の防音性能を発揮します)

次ページで
詳しく紹介



インサルカバー™

エキゾーストマニホールドなど排気系部品からの熱を遮断する金属製のカバーです。また、排気系からの音を軽減し、遮音効果も高めます。各種高性能断熱材、耐熱制振材などのオプションを組み合わせることで、耐久性向上と低騒音化に貢献します。



エコフレックス™

排気ガスをクリーンにする触媒担体を振動から守る緩衝材です。アルミナ系の超耐熱繊維からなり、圧縮復元率が良く、優れた保持耐久性を発揮します。保持力をかさ密度によって制御することができ、壊れやすい薄壁担体から高保持力が求められる部分まで幅広い用途で使用できます。

※「エコフレックス」は英国サフィル社の商標です。

エアトーン®の特長

エンジンルーム内からの不快音を断つため、一般的には硬質素材(樹脂製)の防音カバーが使用されていましたが、自動車の燃費改善のためにカバー自体の軽量化を進めると、本来の機能である防音性が損なわれるという課題がありました。

当社が開発した「エアトーン®」は、軽量化を図りながら要求される防音性能を満足するという従来では相反する課題を解決する画期的なエンジンルーム用防音カバーです。

その特長は、高い遮音性を持ちつつ従来品の約1/3の質量を実現したため自動車の軽量化(燃費向上)に大きく貢献する点、さらには柔軟性の高い素材を使用しているため、防音カバーの省スペース化を図ることができ、エンジンルームの設計の自由度(クラッシュブルゾーンや居住空間確保など)を向上する点にあります。

特長1
高い遮音性

特長2
優れた柔軟性

特長3
超軽量



主な採用実績
 ・CVTカバー
 ・吸気パイプカバー

特長1 | 高い遮音性
車体の軽量化に伴う不快音を断つ

騒音発生源対策に使用される防音カバーは、樹脂製の硬質カバーに吸音材を組み合わせたものが一般的でした。その遮音性能は硬質カバーの重量に比例します(これを質量則といいます)が、この「エアトーン®」は、当社独自の技術で選定した弾性多孔質吸音材と軟質遮音材とを積層することで、質量則以上の遮音性能を発揮します。さらには硬質カバーに見られる振動に伴うビビリ音(2次放射音)が発生しないという利点もあります。

特長2 | 優れた柔軟性
設計の自由度が拡大

従来の樹脂製カバーでは、音源側の部品との接触による反響音を緩和するために、部品との間に空間を設ける必要がありました。「エアトーン®」は音源側の部品と接触しても振動を吸収する柔らかい素材で構成していますので、音源側部品と密着して装着することができ、省スペースにも貢献します。それによりエンジンルームの設計の自由度が拡大します。また、加工性にも優れ、任意の立体形状にも成形できるため、お客さまの要望に合わせた形状の部品納入が可能です。

重さ
1/3

特長3 | 超軽量
燃費改善に貢献

「弾性多孔質吸音材」「軟質遮音材」「化学処理(撥水撥油処理など)を施した不織布」を積層した基本構造のエアトーン®は、従来の樹脂製カバーの1/3の重さで同等以上の防音性能を発揮するため、車体を軽量化でき、燃費の改善に貢献します。

●エアトーンの構造



撥水処理不織布	遮音層
粘弾性体遮音層	
多孔質吸音材	吸音層
中間フィルム	
多孔質吸音材	吸音層
撥水処理不織布	遮音層

開発責任者の声



自動車部品事業本部
技術開発部 部長 今中 博信

環境・騒音規制に対し、高い防音性能で社会に貢献します。

燃費、排気ガス規制の強化により、自動車部品の軽量化による振動騒音や、電動化によるノイズ音の発生が高まっています。当社の「エアトーン®」は超軽量・省スペースでありながら、優れた吸音・遮音性能を持ち、ますます厳しくなる規制にも貢献できる製品であると自負しています。当社は浜松テクニカルセンターに音響性能評価設備を擁し、お客さまの騒音の改善に対して自社で騒音発生場所の特定および製品の効果確認まで実施し、部品設計をご提案できるメーカーとして評価をいただいています。今後もさらなる使用環境の拡大、要求性能の向上に対応した新製品開発に取り組みたいと考えています。

VOICE

お客さまの声



トヨタ自動車株式会社
ユニットセンター ドライブトレンユニット設計部
CVT設計室 室長 羽瀬 良司様

軽量ながら防音性能に優れており、他社にはない独創的な製品です。

従来の防音カバーは搭載性や重量増などで苦労していましたが、「エアトーン®」は成形性が良いため、必要な部分だけ他部品と干渉なく搭載することができ、ムダがなく自由度の高い設計が軽量化につながっています。また、素材が軽量のため、締結方法も従来のボルト締結ではなく、樹脂クリップが使用できることも、軽量化に貢献しています。さらに、組付けもしやすく、作業しやすいため、他社にはない独創的な製品だと思います。今後も防音性向上をはじめ、さらなる小サイズ化、低コスト化、簡易な締結性などの観点から、より優れた防音製品の開発に期待します。

VOICE

画期的製品を生み出すR&D拠点 「研究所」と「テクニカルセンター」

当社はよりお客さまのご要望に合った製品、より先進的な製品を開発するためのR&D拠点として、浜松と鶴見（横浜市）に2つの研究所を擁しています。両研究所は、製品開発の土台とも言うべき素材の基礎研究をおこなう「研究開発部門」と、各事業本部傘下で製品開発や改善、製品評価などを実施する「テクニカルセンター」から

成り立っています。こうした研究・開発に不可欠なのが、市場ニーズをいち早くとらえるマーケットインの思想。あらゆる産業と深く関わりながら築いてきたニチアス独自の幅広いネットワークを駆使することで、お客さまのニーズに密着した製品の開発を迅速に行えることが大きな強みです。

浜松研究所・自動車部品テクニカルセンター

浜松研究所には、自動車部品の研究・開発を専門に行う「自動車部品テクニカルセンター」があります。ここでは当社が得意とする自動車用の防音・防熱・シール部品の開発・研究を行っています。エアートン®などの当社自動車部品もここで開発されました。当センターは、最新の研究設備を配備し、機能、品質、納期、コストのあらゆる面で高度化するお客さまの要望にお応えしています。この中にある「ベンチ棟」は、エンジンのベンチ試験を行う専用建屋となっています。テクニカルセンターでは浜松研究所研究開発部門と連携し、試験設備や技術的知見を有効活用し、自動車部品の開発に対してのシナジー効果を発揮させます。まさに21世紀の自動車開発に欠かすことのできない防音・防熱・シール部品・燃費向上部品の総合技術開発センターとしての役割を担っています。



浜松研究所・自動車部品テクニカルセンター

計測エンジンベンチ室

「計測エンジンベンチ室」は騒音規制に対応する製品を開発するための音響計測が可能な半無響室となっています。このエンジンベンチ室の最大の特徴は動力計に交流式を採用している点です。通常のエンジン耐久評価もさることながら、交流式動力計は、モータリング（エンジンファイリングしないでモーター駆動によりエンジンを駆動すること）ができるため、エンジンの燃焼に起因するメカニカルノイズをキャンセルした各種メカニカルノイズやミッションギアノイズなどの音響計測ができます。



計測エンジンベンチ室

無響室

●実車半無響室

本室は床面以外の5面を楔型吸音材で覆い、実車計測に対応させた構造になっています。アイドリング状態、定回転でのエンジンルーム内の主要音源探査、防音部品による効果の測定と結果の可視化が可能となっています。

●全無響室

全無響室では防音部品の材料や開発品の音響性能評価をおこないます。この部屋は床面を含めた壁面全面を吸音材で施工した全無響構造であり、建屋本体から振動絶縁された建物の振動が試験に影響しにくい構造になっています。音源はホワイトノイズ、ピンクノイズのほか、超低周波音から超音波まで発生可能なジェネレーターを備え、さまざまなモデル実験に柔軟に対応できる仕様になっています。また、小型加振器を使用するの固体伝播音測定、振動加速度伝達率の測定なども可能となっています。



実車半無響室

CSR活動への取り組み

ニチアスグループは、お客さま、お取引先、株主・投資家、従業員とのつながりはもとより、社会全般および拠点のある地域社会とのつながりを大切に、さらにより良い関係の構築をめざしたCSR活動に取り組んでいます。



コーポレートガバナンス

ニチアスグループは、経営の透明性、公正性、効率性を高め、企業価値を長期にわたり安定的に向上させることが経営の最重要課題と考えています。

コーポレートガバナンス

企業価値の向上は、公正な企業活動による社会的使命を果たし、ステークホルダーの皆さまの信頼と支持を得て初めて可能であり、コーポレートガバナンスの充実はそのための体制づくりの基本的な命題であると当社は位置付けています。

当社の取締役会は、経営の透明性、公正性を高め、かつ経営上の意思決定を迅速におこなうため、当社事業に精通した9名の取締役と、独立した立場から自由に提言できる1名の社外取締役で構成しています^{注1}。毎月定例日に1回、必要な場合は臨時に開催し、経営上の重要な意思決定をおこなっています。2014年度は合計14回開催しました。このほか、取締役、常勤監査役、各本部を担当する執行役員により構成される経

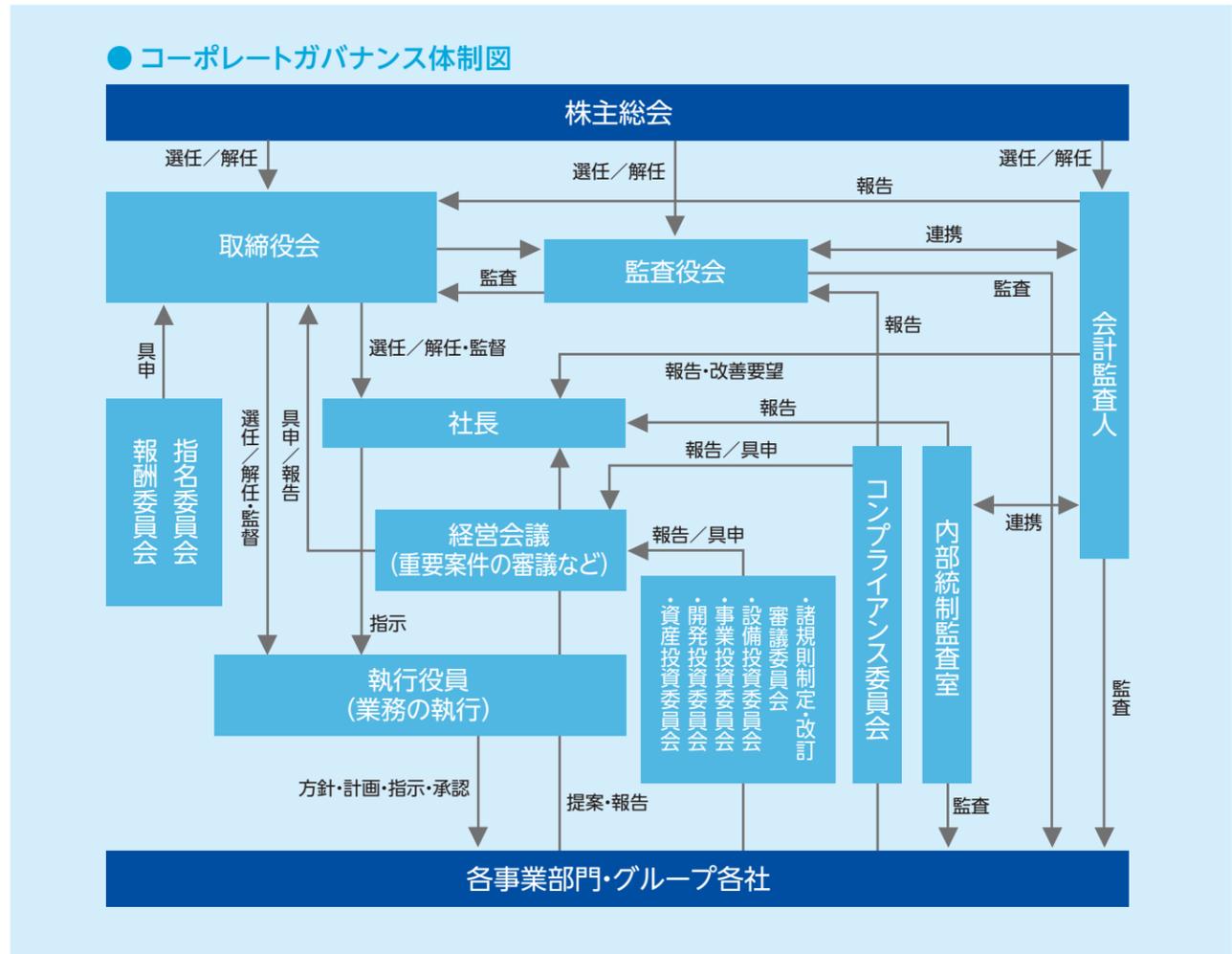
営会議を原則毎週開催しています。稟議案件の承認、全社的な業務運営や個別の重要案件を審議することで、より適切な経営判断および業務執行が可能となる体制を構築しています。

また、当社の監査役会は経営監視機能の客観性と中立性を確保するため、それぞれ専門分野をもった社外監査役と常勤監査役によって構成されており、経営に対する積極的な意見表明をおこなっています。

また、内部統制については内部統制監査室が当社グループの内部監査を計画的に実施しています。

当社はこれらの体制を構築することにより、経営の透明性、公正性、効率性を高めています。

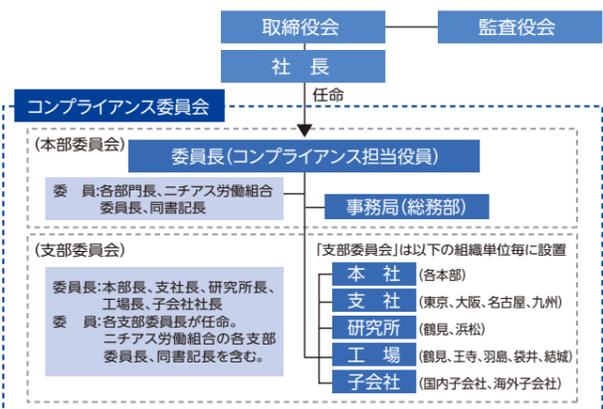
注1:取締役会の構成については、2015年6月26日現在の情報を記載しています。



コンプライアンス活動

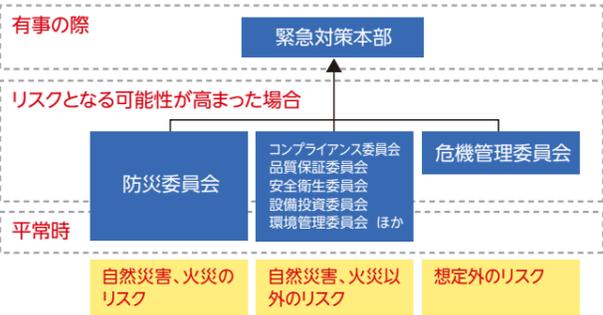
当社は、企業経営をおこなううえで、また社会の中で活動する一員として、多くのステークホルダーの皆さまと良好な関係を構築できるよう、法令・定款の順守はもとより、社会の良識、常識を踏まえたコンプライアンス活動に取り組んでいます。

活動の基盤は、毎月開催されるコンプライアンス本部委員会と3カ月に一度開催される事業場ごとのコンプライアンス支部委員会にあり、コンプライアンス違反につながりかねない行為の根絶を図っています。また、定点観測という観点からの定期的な(おおむね3年に一度)従業員全員を対象としたアンケートの実施、階層別研修などを通じた教育や、通報窓口としてのコンプライアンスカウンターの啓発ポスターを掲示するなど、従業員の意識向上と、通報者が情報提供をしやすい開かれた体制づくりを積極的に推進しています。



リスクマネジメント体制

「断つ・保つ」の技術を基盤とした製品・サービスを安定供給することを社会的使命とし、リスクマネジメントの実践を通じて事業の存続・安定的発展を確保しています。経営上の重大リスクに直面した際には、緊急対策本部を設置し、全社一丸で即応できる体制を整えています。



BCP(事業継続計画)への取り組み

当社グループは幅広い産業になくてはならない製品・サービスを提供しています。したがって製品供給が滞ることなく、継続的に事業活動をおこなっていくためのBCP対策は極めて重要な経営課題です。

災害発生時に製品供給が途絶えた場合のお客さまへの影響度合い、市場での重要性、他社製品も含んだ代替品への切り換えの可能性などを勘案し、対策が必要な製品の優先順位をつけ、対策を確実に実施することで、製品供給の確保に努めています。また、災害の発生時、企業活動を支える従業員の安全確保も重要な課題です。この2点をBCP対策の基本課題として、各種対策に取り組んでいます。



お客さまとのつながり

ニチアスグループは、お客さまにとって安全・安心な製品の提供、および、お客さまに役立つ製品・工法の提供を推進しています。



安全・安心な製品の提供

● 品質への取り組み

日々の品質管理はもちろんのこと、クレームの未然防止にも積極的に取り組んでいます。特に人命に関わる事故や環境汚染につながる危険性のある不具合などの重大クレームを引き起こす可能性のある製品および工程を洗い出し、その工程での品質つくり込みの条件、作業手順、管理方法の妥当性の確認と見直しをおこない、不具合発生を未然に防止する活動を進めています。

● 生産活動向上に向けた人材の育成

お客さまに安心して使っていただける製品を継続的に提供するためには、常にお客さまの立場にたって考え、製品の品質の維持・向上を図ることができる人材を育成することが必要です。

そのために、各製造事業場では人の可能性を信じ、品質管理・生産管理・安全管理を中心とした勉強会を開催しています。

● マネジメントシステム体制

1996年に羽島工場がISO9002(当時)を取得したのをはじめに、各製造事業場で品質マネジメントシステムの構築を進め、現在は国内外の製造工場や製造子会社など多数の事業場にて認証を取得しています。

お客さまのニーズに合わせた製品・サービスの提供

● ガスケットNAVI™

プラント配管継ぎ手などのシール材として使用されるガスケットにはさまざまな種類があり、その選定と取り付けには専門的な知識が要求されます。2013年12月に公開したアプリケーションソフト「ガスケットNAVI」は、これらに必要な情報をパソコンやスマートフォンで簡単に検索・算出することができ、お客さまのお役に立てていただいています。

「ガスケットNAVI」/
<http://seal.nichias.co.jp/>



VOICE

若手リーダーへの教育を実施/ 王寺工場

王寺工場では、人が代わっても現在の改善活動を継続していくために、生産活動の基礎的な教育「GTO教育」を、若手リーダーを中心にして2回/月の頻度で実施しています。

私も品質管理についての教育を担当し、継続していくなかで、職場での品質レベルが向上してきているのを実感しています。



王寺工場
品質管理課 課長
入村 純一



「GTO教育」の様子

(注)GTO: Growing Together at Oji

製品設計・製造・施工・引渡しにいたるそれぞれの活動において品質を確保し、お客さまに信頼される製品・工法・サービスの提供に最善を尽くしています。

● GASKET工房™

化学プラント工場などの定期修理現場では、当社のガスケット加工品が緊急で必要になることがあります。このようなお客さまからの緊急のご要望にお応えするため、お客さまの現場に常駐しその場で加工が可能な移動式設備「GASKET工房」を2014年5月から稼働しました。

2014年度は茨城県鹿島地区、三重県四日市地区、山口県宇部地区など、全国各地30カ所以上の石油化学プラントを回りました。



お客さまの現場に常駐している「GASKET工房」

株主・お取引先とのつながり

ニチアスグループは、透明性、公正性、効率性を重視した経営をおこなうとともに、財務情報については、迅速かつ適切に開示しています。

また、お取引先に対しては、公平性を重視し、法令を順守した公正な取引をおこなっています。

株主・投資家とのコミュニケーション

● IR活動

当社は、積極的なIR活動によって、情報開示の充実と迅速化を進める一方、投資家と活発なコミュニケーションを図っています。例えば、アナリスト・機関投資家向け決算説明会を開催しているほか、日常的な面談やミーティングも行っています。2014年度は1回のスモールミーティングと延べ138件の個別ミーティングをおこないました。また、国内外の株主・投資家とのコミュニケーションを強化し、幅広い株主層の形成に努めてまいります。

● アナリスト向け決算説明会の開催

アナリスト・機関投資家との適時・適切なコミュニケーションを図るため、期末決算および第2四半期決算の発表時に決算説明会を開催しています。決算説明会では財務情報、事業概要、経営戦略を説明するとともに、経営幹部と投資家との対話にも積極的に取り組んでいます。2014年度は、2回の説明会で計100人に出席いただきました。みなさまからいただいたご意見は、社内で共有し業績向上に役立てています。



決算説明会の様子

お取引先とのコミュニケーション

● 公正な評価による取引先の選定

当社の事業活動は、多くのお取引先に支えられています。そこで当社では、お取引先の方々に公平な競争機会を提供しています。各お取引先について、製品・サービスの品質や供給能力、財務状況、環境への配慮などを公平に評価し、取引先の選定をおこなっています。

● グリーン調達への取り組み、調達基準の制定・見直し

当社グループは、「環境に配慮したものづくり」をキーワードに、研究・開発から原材料調達、製造、流通、消費、廃棄などの各段階における環境負担が小さい環境配慮型製品の開発に取り組んでいます。その一環として2005年4月に「グリーン調達ガイドライン」を制定しました。ガイドラインでは、当社グループで使用を禁止している環境負荷物質、および使用状況の把握が必要な環境負荷物質を選定し、新規に採用する原材料の事前チェックをおこなうことを定めています。環境負荷物質は規制の強化とともに年々追加されていますので、定期的に基準の見直しをおこなっています。現在も欧州REACH規制やGADSLの対象物質増加・変更により、ガイドライン改訂を実施しています。



グリーン調達ガイドライン

● 独占禁止法・下請法順守への取り組み

当社グループは、CSR活動の一環として、独占禁止法および下請法の研修に力を入れています。毎年、新入社員研修をはじめとした階層別教育研修などをプログラムに盛り込み、実施しています。また、各支社および工場ならびに子会社の担当者に対し、下請法に関する実務面の説明会を実施しています。さらに、2014年度には国内のみならず海外の競争法を含めた独占禁止法に関するeラーニングによる研修を役員および従業員を対象として実施しました。これら研修・説明会を通じて、当社グループは法令順守の徹底を図っています。



独占禁止法・下請法の従業員研修

社会とのつながり

ニチアスグループは、支援活動や助成を通じた社会への貢献を意欲的に推進しています。また、事業場がある地域社会とのコミュニケーションづくりを大切にしています。

社会貢献活動

● さまざまな学術研究に対する助成

当社は、日本の研究・開発機関に貢献すべく、大学などへ学術研究に対する助成をおこなっています。助成先は、半導体関連、有機合成、セラミックス、分析・評価技術など最先端技術を中心に幅広い分野にわたっています。また、なかには10年間にわたり助成をさせていただいている機関もあり、その総額は約1億円になっています。2014年度については、総額約1,000万円の助成をしています。今後とも日本の有望と思われる分野、機関に助成をおこなっていきたく考えています。

● 寄付・支援活動

当社は、日本赤十字社や各都道府県の共同募金会を經由した寄付・支援活動をおこなっています。2014年度は広島市の土砂災害に対する義捐金をはじめとする寄付をおこないました。今後もこのような活動を継続していきます。

「ニチアスの森」プロジェクトの発足 マレーシア

マレーシアのケダ州にあるニチアスFGS社は、州営林局から借り受けた森林を数年かけて保全・再生する「ニチアスの森」を発足しました。これを受けて2014年12月、プロジェクトのオープニングセレモニーを行いました。セレモニーでは州営林局や政府関係者、NPOの環境保護団体などが出席されました。ケダ州において、このような環境保全活動は日系企業で初の試みで、地元政府からも注目されています。

ニチアスFGS社は定期的な保全活動で数年をかけて自然本来の野山へと再生させていき、現地の環境保全に貢献します。



オープニングセレモニーの様子

● 奈良県からの表彰

当社グループのメタコート工業奈良工場は、奈良県から、仕事と生活の調和のとれた良質な雇用環境の整備に取り組む「県社員・シャイン職場づくり推進企業」として登録され、平成26年度表彰企業として仕事と家庭の両立推進部門で表彰されました。

今回の受賞は、育児と仕事の両立を支援するフレックスタイム制や、介護活動を支援する短時間勤務制度の導入など、各種制度の充実を図ったことが評価されました。



奈良県庁奥田副知事室で行われた表彰式
(右端、メタコート工業奈良工場長 米山)

● 王寺工場 献血活動への協力

王寺工場はメタコート工業奈良工場と合同で毎年2回、献血活動を実施しています。2014年度は計45人が参加しました。この献血運動には10年以上前から積極的に取り組んでおり、2011年には厚生労働大臣より感謝状を受領しています。



献血活動

ニチアスグループ各拠点の地域貢献活動

各事業所での地域貢献活動への取り組み

事業所	取り組み内容
本社	地元清掃活動への参加(中央区「まちかどグリーンデー」)(P26参照)
仙台支店	東北大学「海洋と地球の学校」への寄付
仙台支店(六ヶ所事務所)	地元野球チームやスポーツ少年団に対する野球教室、地元夏祭りでのボランティア活動
千葉支店	各種寄付(地元消防団/日本赤十字社/千葉県共同募金会)
鶴見工場	各種寄付(鶴見川サマーフェスティバル/つみみ臨海フェスティバル/鶴見区消防出初式)
若狭支店(美浜事務所)	地域美化活動への参加(三方五湖一斉清掃活動/県道白木線清掃活動/クリーンアップふくい大作戦in美浜/クリーン・ザ・シーキャンペーン/はこべの家清掃活動)、関西電力主催活動への参加(日本赤十字救急法救急員講習会/餅つき大会)
若狭支店(大飯事務所)	地域美化活動への参加(袖ヶ浜・塩浜海岸清掃活動/関西電力主催による県道清掃)
羽島工場	長良川へのアユの稚魚放流(下記参照)、工場外周清掃
袋井工場	地元住民への説明会の開催、地元花火大会への寄付およびボランティア活動、工場外周清掃
京滋支店	地元お祭りへの寄付
王寺工場	各種交通安全活動への参加(横断歩道の交通整理/近隣カーブミラーの清掃/交通安全街頭指導への参加)、献血活動の実施(下記参照)、工場壁面への地元PR看板を設置、自治会の消防訓練へ参加、工場外周清掃
郡山分工場	所属する「昭和工業団地」の地域活性化運動への参加、工業団地主催の地域活性化運動の運営、地域美化活動(岡崎川周辺一斉清掃/工場外周清掃)
北九州営業所	地域祭りへの寄付(黒崎祇園山笠)
福島ニチアス	復興夏祭りイベントへの協賛、近隣の遺跡管理、工場美化活動
大田化成	地元夏祭りへの寄付、ペットボトルキャップ収集活動への参加、工場外周清掃
日本ロックウール大阪支店	事務所花壇手入れによる美化活動を実施
堺ニチアス	地元夏祭りへの寄付、近隣自治会と周辺会員企業による一斉清掃活動への参加、工場周辺清掃活動
国分工業	化学物質対策セミナーでの化学物質削減事例の講演、町内秋祭りへの寄付、工場周辺河川敷の清掃および地域コミュニケーションの実施
竜田工業	龍田神社秋祭りへの参加および工場敷地の提供(下記参照)、地域美化活動への参加(竜田川公園の清掃、地元公民館、工場周辺)
メタコート工業岡山工場	地元夏祭りへの協力、工業団地内クリーンキャンペーンへの参加
熊本ニチアス	周辺工業団地での交通安全活動(通学路の交通指導/車両通行調査によるドライバーへの指導・教育)(下記参照)、工業団地周辺美化活動への参加

■ ニチアス本体 ■ 子会社

● 羽島工場 長良川への稚魚放流活動への参加

2014年11月、アユの稚魚を長良川に放流する活動に参加しました。放流と一緒に参加した地域工場会の方々ときれいな河川を守ることに大切さを実感するとともに、地域事業者として工場周辺環境保全の取り組みへの思いを新たにしました。



稚魚放流活動

● 竜田工業 龍田神社秋祭りへの参加・工場敷地の提供

飛鳥時代に聖徳太子が法隆寺の鎮守として創建したと伝えられている龍田神社。竜田工業は2014年10月、この神社の秋祭りに参加し、龍田青年団太鼓台の休憩場として工場敷地を提供しました。この活動は2005年から続けており、地元住民の方と一緒に祭りを楽しみながら交流を深めています。



秋祭りの様子

● 熊本ニチアス 事業所周辺における通学路の交通指導

2014年4～5月、熊本ニチアスは周辺の工業団地(セミコンテクノパーク)の通学路において、道路横断をサポートするなどの交通安全指導をおこないました。周辺企業と協力して当番制で毎日実施しています。活動を通して地域児童の安全を支えています。



交通指導

従業員とのつながり

ニチアスグループは、安心して働くことのできる職場づくりに取り組んでいます。また、ダイバーシティの推進やワーク・ライフ・バランスを重視し、仕事と家庭を両立してキャリアを積める各種制度の充実を図っています。



労働安全衛生

● 安全・衛生への取り組み

安全最優先の大原則のもと安全衛生基本方針に基づき、安全、衛生、健康に関する活動に取り組んでいます。具体的には、安全な製造設備への改善の取り組み、リスクアセスメントの推進、作業員への安全・衛生教育の実施などです。事故が起こってから取り組むのではなく、リスクを先取りして未然に対応すべく、継続的な活動を進めています。

現場主導の安全活動が発案されるために 若手リーダーを中心とした安全教育を推進

安全活動は災害を起こさない・起こさせない活動に加え、もし災害が起こっても大きな災害にならない活動が重要と考えています。こうした取り組みが現場主導で発案されるように、現場のリーダーおよびリーダー候補生を対象とした教育を実施しています。自らの安全行動はもとより“設備や作業方法を安全に改善する考え方”“新人や未経験者に対する指導の注意点”“ニチアス技能者としての誇り”などを重視しています。

また、全国安全週間においては製造事業場の従業員を対象に安全標語を公募し、表彰するなどの安全意識の啓発に努めています。



安全活動についての講演



安全衛生環境部
副部長
小西 昇一郎

2014年度 ニチアス全国安全週間
安全標語 金賞

声掛けて仲間に渡す 安全バトン
目指すゴールは ゼロ災職場

働きがいのある職場づくり

● コミュニケーションの活性化を図るグループ報

グループ報「とんぼのわ」を年に4回発行しています。経営情報を従業員へ適切に伝えるとともに、海外までを含めた各拠点で活躍する従業員の声など、さまざまな情報を掲載し、経営層や従業員間のコミュニケーションの活性化を図っています。

ダイバーシティの取り組み

当社は安心して働くことのできる環境づくりを経営ビジョンに掲げており、女性・高齢者・障がい者などの働きやすい環境づくりに取り組んでいます。

● 定年後再雇用制度

当社は2001年から、本人が希望すれば年金支給開始年齢（現在は65歳）まで再雇用される制度を導入しています。

● 女性従業員活躍推進の取り組み

女性が結婚・出産・育児などのライフイベントを迎えたときでも、キャリアを維持し安心して働くことができるよう、女性従業員活躍への各種就業支援についての取り組みを検討しています。また社内でもダイバーシティの意識が浸透し理解が深まるよう、管理職層への研修についても検討をおこなっています。

ワーク・ライフ・バランス

● 仕事と出産の両立を支援

当社では、育児休業期間を1年6カ月まで、また、妊娠中の女性従業員についても本人の申し出で時差勤務などを認める「母性保護」を推進。従業員が安心して子育てに専念できる環境づくりに取り組んでいます。



袋井工場 総務課 香川 ひろ子

制度と職場環境に 感謝しています

私は、2002年に第一子、2006年に第二子、2012年に第三子を出産し、3回育児休業を利用しました。育児休業中は、心身ともにゆっくり子供の成長を感じることができて、とても良い時間を過ごすことができました。

復帰後も短縮制度で30分遅い出勤と、学校行事などで時間有給や有給休暇を利用しますが、制度の利用と周りの方々の協力で、仕事も子育ても楽しく両立できる職場環境に感謝しています。

● 時間単位の年次有給休暇

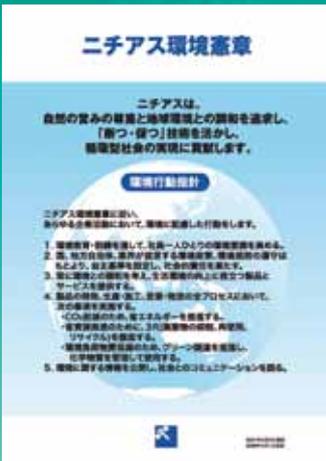
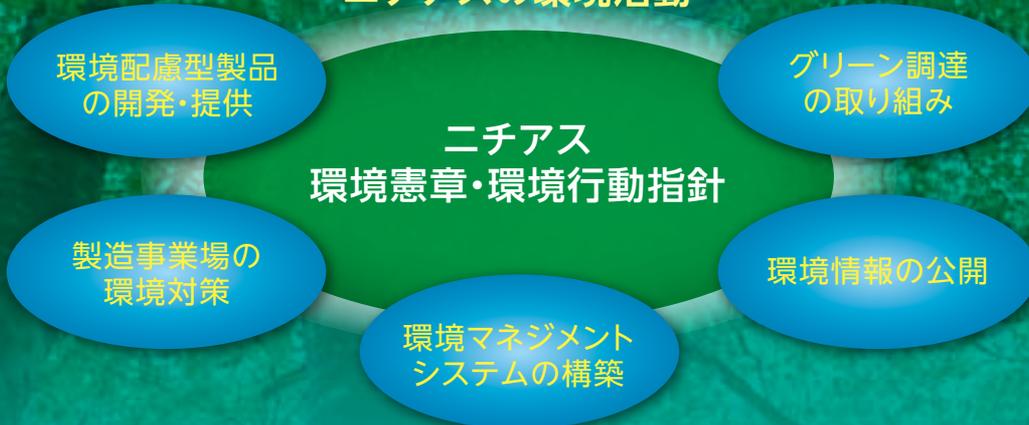
年次有給休暇は以前から半日の取得が可能でしたが、2010年から年40時間まで時間単位の取得も可能にしました。短時間での私用がある場合など、従業員は同制度を有効的に活用しています。

環境への取り組み

ニチアスグループの製品は、断熱、流体の漏れ防止、遮音、耐食などの機能により、省エネルギー、省資源、安全衛生・環境保全などお客様の「環境」に関するニーズに応え、お客様の使用ステージにおいて環境負荷の低減を実現しています。

ニチアスグループは、つねに「環境」を意識して活動しています。

ニチアスの環境活動



【ニチアス環境憲章】

ニチアスは、自然の営みの尊重と地球環境との調和を追求し、「断つ・保つ」技術を活かし、循環型社会の実現に貢献します。

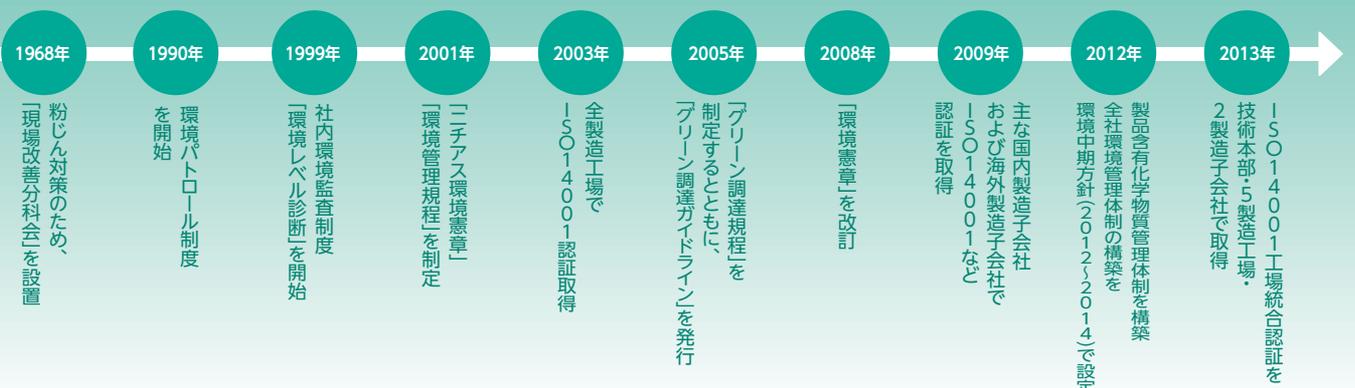
【環境行動指針】

ニチアス環境憲章に従い、あらゆる企業活動において、環境に配慮した行動をします。

1. 環境教育・訓練を通して、社員一人ひとりの環境意識を高める。
2. 国、地方自治体、業界が提言する環境政策、環境規則の遵守はもとより、自主基準を設定し、社会的責任を果たす。
3. 常に環境との調和を考え、生活環境の向上に役立つ製品とサービスを提供する。
4. 製品の開発、生産・施工、営業・物流の全プロセスにおいて、次の事項を実施する。
 - ・CO₂削減のため、省エネルギーを推進する。
 - ・省資源推進のために、3R(廃棄物の抑制、再使用、リサイクル)を徹底する。
 - ・環境負荷物質低減のため、グリーン調達を推進し、化学物質を管理して使用する。
5. 環境に関する情報を公開し、社会とのコミュニケーションを図る。

環境活動の歩み

当社グループでは、早期から環境パトロールやレベル診断など、独自の方法で環境問題へ取り組み、管理・対策などを実施し、環境負荷を低減してきました。これからも幅広い分野に目を向け、持続可能な社会の構築に貢献し続けます。



環境マネジメント

さまざまな環境問題に積極的に取り組むとともに、
環境経営の実現をめざし全社環境マネジメントシステムの構築を推進しています。

環境管理活動と目標

「ニチアス環境憲章」に基づき、環境中期方針（2012年度～2014年度）を策定しています。環境中期方針では「環境経営」「環境啓発」「コンプライアンス」「環境負荷削減」「環境コミュニケーション」の5分野で課題設定しています。本

方針では、全社環境活動をより効果的に推進するため、「環境マネジメントシステムの構築」を最重要課題としています。この環境中期方針を1年延長し2015年度まで継続することとしました。

環境中期方針に基づく2014年の目標と実績

	環境中期目標	2014年度目標	2014年度実績	評価	2015年度目標
環境経営	環境管理体制の構築	全社環境マネジメントシステムの構築	ISO14001技術本部・工場間統合全社統合体制・規程づくり	●	2013年度に確定した全社環境管理体制の維持推進 統合ISO14001の継続と統合範囲の拡大
環境啓発	従業員の環境意識向上	全従業員への定期環境教育の推進と維持	環境ボランティアの実施 eラーニングの実施	●	全従業員への定期環境教育の推進と維持の継続 eラーニングによる全社教育の実施継続 エコポスト発行の継続
			ニーズにあった部門別環境教育の維持推進	●	
			特定業務者への環境教育の実施	●	
コンプライアンス	事業場のコンプライアンス	全事業場における環境法規の順守の徹底	2013年度に引き続き、人事異動、契約時などの変化点で法順守できる仕組みづくりを実施	▲	全事業場における環境法規の順守徹底
			支社/支店/営業所の廃棄物担当者への教育を実施	●	
コンプライアンス	製品のコンプライアンス	製品環境法規の順守徹底	製品含有物質管理体制の維持・運用 製品含有物質表に基づくラベル・SDSの改訂	●	製品環境法規の順守徹底 製品環境アセスメント、製品含有物質管理の徹底 グリーン調達対応の継続
			顧客グリーン調達への対応体制構築	●	
環境負荷削減	産業廃棄物削減	産業廃棄物排出量生産高原単位を2014年度末に2011年度比5%削減	製造事業場の2014年度産業廃棄物排出量生産高原単位を2011年度比5%削減	×	産業廃棄物排出量生産高原単位を2015年度末に2011年度比5%削減
			CO ₂ 削減 省エネルギー	CO ₂ 排出量生産高原単位を2014年度末に2011年度比3%削減	
環境コミュニケーション	情報公開	情報公開の維持・推進	CSRレポートの発行	●	CSRレポートの発行継続
	地域と製造事業場の共生	再発苦情の撲滅	環境パトロールの有効活用 再発苦情撲滅のための方策づくり 再発苦情 ゼロ	×	再発苦情撲滅のための方策づくり 再発苦情 ゼロ

環境管理推進体制

環境経営への転換を目的として2011年度より全社環境管理推進体制の整備を進めています。環境に配慮した活動を全社方針のもとで実現するため「全社環境委員会」を設置しています。同委員会のもとに「管理」「製品」「工場」の3部会を置く体制としました。2014年度は「全社環境マネジメントシステムの構築」をさらに進めて「ISO14001工場統合認証」を一部拡大（1子会社工場を追加、結城工場の1部門を認証追加）しました。それ以外の製造子会社でも環境マネジメントシステムを取得継続し、環境管理を推進しています。

環境管理推進体制図



ISO14001などマネジメントシステムの認証取得状況
<http://www.nichias.co.jp/environment/management/index.html>

環境監査体制

製造事業場では①製造事業場内での内部監査、②本社環境部門による監査、③外部審査機関による監査の3者による環境監査を実施しています。2014年度もISO14001工場統合認証継続活動のなかで事業場間相互内部監査を実施しています。なお、これらの監査の結果、敷地境界騒音の一部基準超過はあるものの重大な法令違反はありませんでした。

環境会計

事業活動における環境保全設備投資金額^{注1}は172百万円（前年度比102百万円減）でグループ全体の設備投資額の6.2%に当たります。環境設備の運転コスト・メンテナンス費用・人件費などを集計した環境保全コスト^{注2}は486百万円（前年度比7百万円増）でした。これらのコストは、大気汚染、水質汚濁、悪臭などの公害防止、産業廃棄物処理、環境負荷監視などにともなうものでした。

注1：当社グループ全体を集計対象
注2：当社製造工場のみを集計対象（グループ全体の集計は検討中）

環境保全設備投資金額(当社グループ全体/2014年度) (単位:百万円)

分類	金額	
事業エリア内コスト	公害防止コスト	49
	地球環境保全コスト	77
	資源循環コスト	17
管理活動コスト	29	
合計	172	

環境保全コスト(当社製造工場/2014年度) (単位:百万円)

分類	金額	
事業エリア内コスト	公害防止コスト	250
	地球環境保全コスト	2
	資源循環コスト	164
管理活動コスト	70	
合計	486	

環境教育・啓発

● 環境教育活動

当社では昇格時に階層別教育を実施しており、そこで製品のライフサイクルにおける環境影響や化学物質規制、環境法規の動向などの環境コンプライアンスに重点を置いた内容をわかりやすく説明しています。2014年度は新入社員を対象としたゲーム形式の環境教育を開催しました。また、全社員を対象とした職種別eラーニングで環境教育を実施しました。

環境リスクマネジメント

● 製品含有化学物質管理への取り組み

製品の開発設計から、調達、製造、販売までの各段階において、化学物質規制に対するコンプライアンスを徹底する取り組みを継続しています。2014年度は2012年度から引き続き「製品含有化学物質の管理体制」の運用を進めてきました。従来から発行しておりましたSDS(安全データシート)や製品ラベルなどお客さまへの提供資料を同体制に連動して作成・管理ができる仕組みも出来あがりしました。今後も全製品の「製品含有物質表」作成を2017年度末を目標に整備していきます。

● 環境パトロール

地域社会との共生を目的として、当社グループでは1990年から環境パトロールを実施しています。これは従業員が事業場の周囲をパトロールし「美観」「大気(粉じん・臭気)」「騒音・振動」「排水」の4つの項目を事業場の特性に合わせて確認する活動です。新鮮な目でパトロールができるようメンバーを定期的に入れ替え、2014年度はグループ全体で延べ117回パトロールを実施し、539件の不具合を摘出し、環境リスクを低減することができました。

● 外部からの指摘

2014年度は、製造事業場から発生する臭気・排煙や騒音についてグループ全体で6件(内再発2件)の指摘を受けました。本年度は指摘への調査・改善をおこなうとともに、過去に受けた指摘の改善を継続的に実施し、発生防止対策、改善を進めております。また、指摘内容の対応経過や改善策は関係自治体へも報告、連絡しています。

環境パフォーマンス

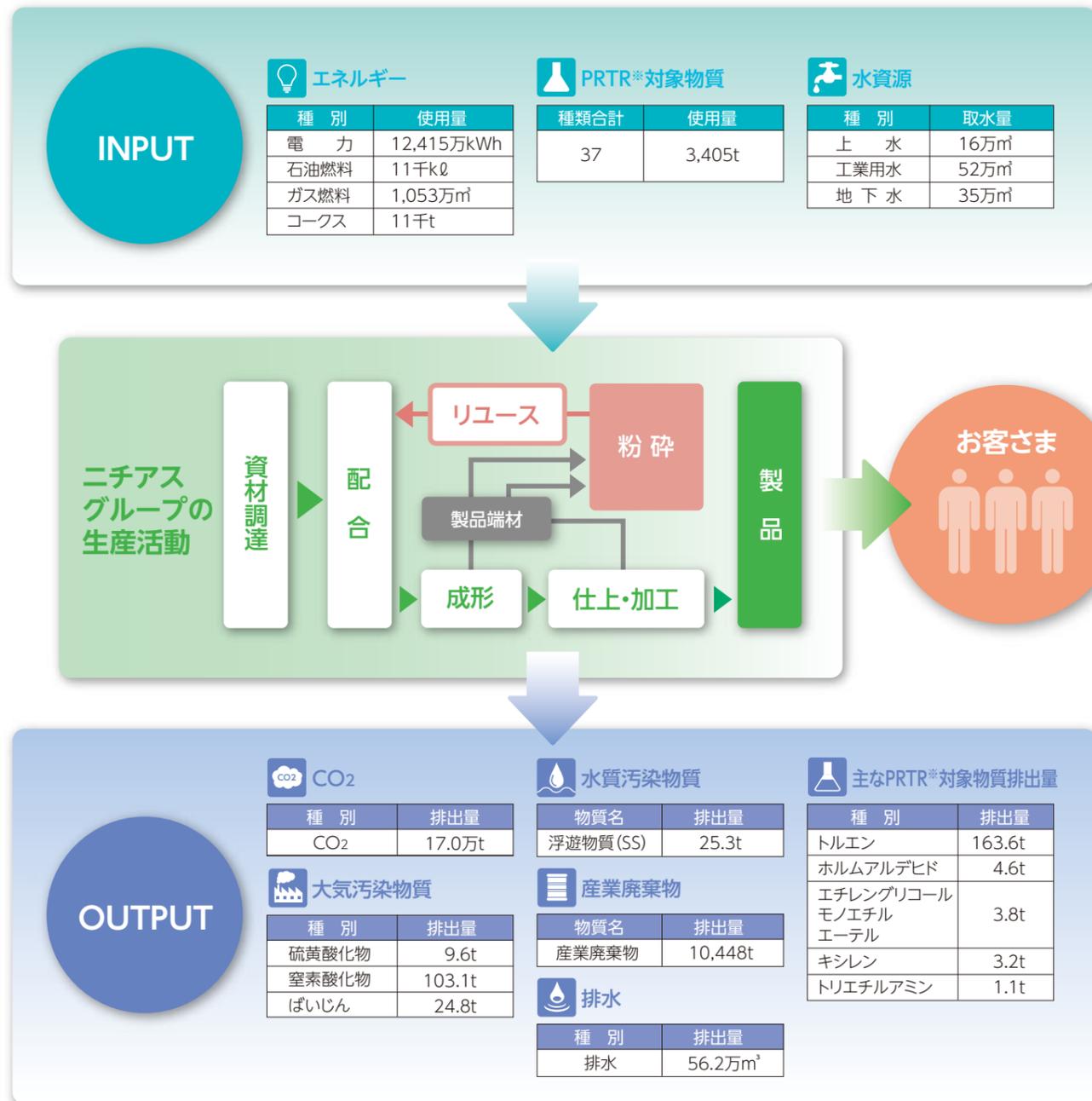
持続可能な社会の構築に向けて

環境負荷物質削減への取り組みを強化しています。

ニチアスグループの環境負荷全体像

当社グループは、事業活動において投入するエネルギー量や化学物質・水資源などの物質量と、排出するCO₂量や産業廃棄物量などを把握するとともにそれらの削減に向けた具体的

な目標を設定し、PDCAサイクルを回すことで環境負荷の削減に取り組んでいます。



*特定化学物質の環境への排出量の把握等および管理の改善の促進に関する法律

CO₂排出実績

当社グループは2014年度末にCO₂排出量生産高原単位3%削減(2011年度比)を目標に活動してきました。2014年度は好調な生産活動により全体でエネルギー使用量が増えCO₂排出量は前年比6,106トン増加、CO₂排出量生産高原単位で比較すると前年度比では2%減少ですが、2011年度比3%削減という目標は未達でした。各拠点では改善活動や省エネ活動に積極的に取り組んでおり、改善活動による電力の削減や、設備投資では省エネ機器の積極的採用、新型ボイラーへの切り替えによる天然ガス使用量の削減などを進めています。また、主要製造事業場から担当者を集め定期的に省エネ分科会を開催し、各拠点の省エネ事例を共有し、水平展開できる仕組みを構築しています。2015年度は2012年度比CO₂排出量生産高原単位3%減と見直し、削減活動を進めます。* 今後も高効率な省エネ機器の導入やエネルギーロスを減らす改善活動をおとして、これまで以上にCO₂排出量削減へ取り組んでまいります。

*東日本大震災以降、購入電力のCO₂係数が上昇したため基準年を2011年から2012年へ修正しました。

CO₂排出抑制の取り組み目標

2014年度末までにCO₂排出量生産高原単位 2011年度比3%削減
 2014年度実績 2011年度比8%増加 (2013年度に比べ2%削減)

CO₂排出量および生産高原単位の推移(当社グループ製造事業場)



不要物・産業廃棄物排出実績

2014年度は前年度に比べ生産量が増加したため事業活動における不要物^{注1}の排出量は総量14,675トンで前年度比1,048トンの増加、産業廃棄物の排出量は10,448トンで前年度比708トンの増加となりました。排出量生産高原単位では前年度比1%の増加、基準年の2011年度比でも1%削減となり目標を達成することはできませんでした。なお、当社グループから排出される不要物から72%のものが再資源^{注2}として利用されています。各拠点での不良低減活動、製造歩留まり改善、生産性向上などの活動を通じて、確実に不要物、産業廃棄物を減量させていく取り組みを引き続き継続してまいります。

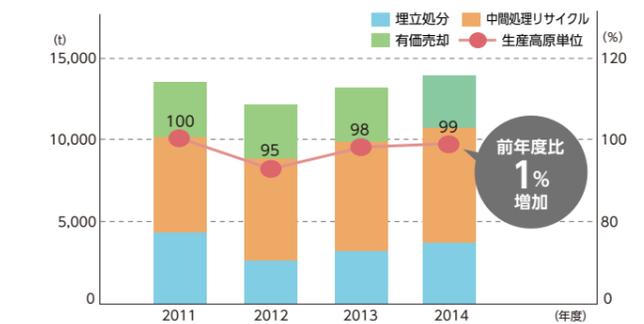
注1: グループから排出される有価売却物を含む廃棄物

注2: 最終処分(埋め立て)以外の中間処理、社内再生、有価売却されたものを再資源化と定義

不要物・産業廃棄物削減の取り組み目標

2014年度末までに産業廃棄物排出量生産高原単位 2011年度比1%削減
 2011年度比 5%削減 (2013年度に比べ1%増加)

不要物排出量および産業廃棄物生産高原単位の推移(当社グループ製造事業場)

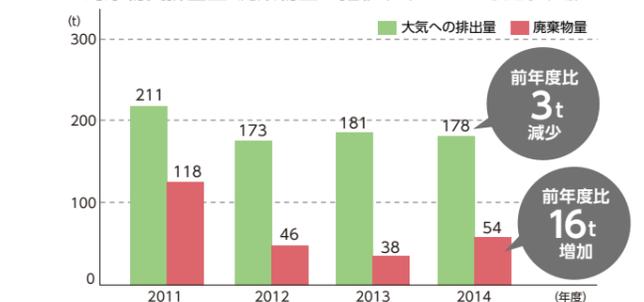


*生産高原単位の算出: 2011年度(臨時廃棄物2,520tを除く)を基準年として算出

PRTR対象物質排出実績

事業活動におけるPRTR対象物質の使用量は3,405トンで、前年度から422トンの増加となりました。主要工場、子会社の生産量が増加し排出された廃棄物に含まれる溶剤分が増加しています。しかし大気への排出量は2013年度の181トンから3トン減少しており、大気排出抑制の改善が効果として出ています。各生産拠点ではすこしでも環境影響を減らすべく化学物質の取り扱い量削減、洗浄剤や塗料の転換による削減といった改善活動を進めております。

PRTR対象物質排出量・廃棄物量の推移(当社グループ製造事業場)



技術と人の力で環境保全

～美しい地球環境・地域社会を未来に残すために～

循環型社会を目指して

● 資源循環技術・システム表彰受賞

ニチアスセラテックと堺ニチアスが「ロックウール綿の固形化(ブリック)による再利用」で平成26年度資源循環技術・システム表彰の経済産業省産業技術環境局長賞を受賞しました。

この表彰は一般社団法人産業環境管理協会が経済産業省の後援を受け、廃棄物の発生抑制、再使用、再資源化の高度な技術または先進的システムを有する事業や取り組みをおこなった事業所を表彰する制度で今回で40回目となります。

表彰された2社はロックウール廃棄物を固形化(ブリック)し原材料として再利用する技術を確認し、廃棄物最終排出量を大幅に削減(2社合計 約29,000トン/年 削減率 約96%)した取り組みが評価されたものです。

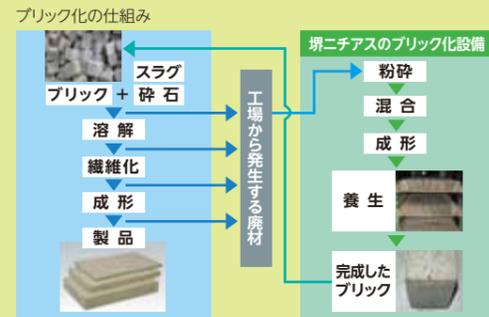


2014年10月17日 表彰式の様子
ニチアスセラテック社長 鈴木(中央 右)、
堺ニチアス社長 梶原(中央 左)

資源循環技術・システム表彰の盾

● ロックウールのブリック化によるリサイクル

ニチアスセラテックおよび堺ニチアスで製造しているロックウール製品の工程で発生した製品端材や不良品は、そのままではリサイクルできませんでしたが、それらを破砕し、レンガのようにセメント固形化(ブリック化)することで、原材料としての再利用が可能となりました。ニチアスセラテックでは2000年に、堺ニチアスでは2004年に、ブリック設備を導入し再利用技術の確立を進めてきました。これからも工程内から排出される廃棄物のリサイクルに積極的に取り組んでいきます。



● 株式会社堺ニチアスでの企業技術者見学会を開催

一般財団法人大阪科学技術センターによる資源循環技術・システム表彰受賞事業所の見学会があり、2015年3月13日堺ニチアスにてブリック再利用の見学を含めた地球環境技術推進懇談会が開催されました。

当見学会では、生産・流通・廃棄の全プロセスで地球環境への負担軽減を図るべく、個別課題の解決策なども合わせて実施し、環境問題の改善を目指した活動をおこなっています。

当日は、ロックウール製品の製造工程や不要物の発生箇所、再利用する際の問題と改善点を紹介したり、製造工程を実際に巡りながら、ブリック化された原材料や設備を実際に見ていただきました。

当見学会にはさまざまな企業・職種の方々が参加し、活発な意見交換ができ、大変有意義な会となりました。



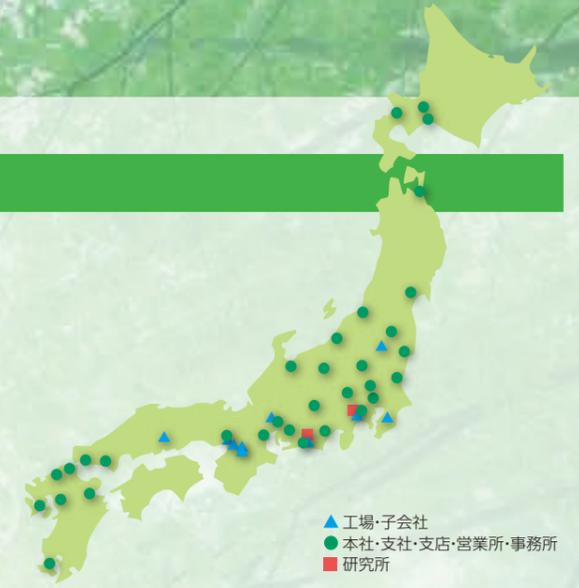
堺ニチアスでの工場見学の様子

環境への貢献を目指して

● セタライトダウンの実施～環境月間～

環境省では、毎年7月7日の20時～22時の2時間をクールアース・デーライトダウンと設定し、ライトアップ施設や各家庭の照明の一斉消灯を呼び掛けています。これは地球温暖化防止のためのCO₂削減を進める全国的行事です。

2014年ニチアスグループ各事業場においてクールアース・デーライトダウンに参加いたしました。ニチアスグループの工場、子会社、支社、支店、営業所、事務所、研究所総勢47事業所にて実施し、総電力量327kWh、総CO₂量178kg-CO₂を削減することができました。



工場・子会社：鶴見工場、王寺工場、羽島工場、袋井工場、ニチアスセラテック(3事業所)、亀田工業(3事業所)、大田化成、国分工業、メタコート工業、堺ニチアス、君津ロックウール
研究所：鶴見研究所、浜松研究所
本社・支社・支店・営業所・事務所：本社・東京支社、札幌支店、仙台支店、鹿島支店、横浜支店、千葉支店、苫小牧営業所、前橋営業所、日立営業所、大宮営業所、新潟営業所、山梨営業所、泊事務所、六ヶ所事務所、柏崎事務所、大阪支社、名古屋支社、四日市支店、豊田支店、静岡支店、富山営業所、浜松営業所、九州支社、徳山支店、熊本支店、長崎支店、北九州営業所、大分営業所、鹿児島営業所、宇部営業所

計47事業所

● 中央区まちかどクリーンデーへの参加

ニチアス本社ビルのある東京都中央区には、『まちかどクリーンデー』という清掃活動があり、中央区内の事業所などがビル周辺や身近な場所、公園などの清掃を毎月10日を中心に地域で一斉に繰り広げ、『住みたい、働きたい、訪れたい』清潔で美しいまちづくりを進めています。現在約150の企業がこの活動に参加しています。ニチアスでも地域の環境保全を目的として、2015年1月からこの活動に参加しています。



実施前のミーティングで安全および注意事項の確認

本社総務部主催のもと各フロア持ち回りで、毎月の実施日を設定し朝9時から9時半までの30分間本社ビル周辺の清掃活動を実施しています。植え込みや溝など、普段目にしないところにゴミがあり、たくさんのゴミを拾い集めました。これからも毎月継続実施していきます。



VOICE

ニチアスの環境パフォーマンス向上のために

2015年1月からスタートし、これまでに5回開催、延べ101人の方に参加していただきました。参加者同士の会話も増え前向きに取り組んでいます。今後も毎月継続して活動を進めていきたいと思います。

管理本部 総務部
原田 圭造

